

B-150 運針に関する研究(第4報)

愛知女短大 ○阪本弘子
岐阜女短大 山田今子

名古屋市立女短大 佐野惇子

目的 運針動作を分析し、その数値によって運針技術を解明することを目的とする。

方法 被検者は、熟練者2名、初心者2名、いずれも体格の類似した計4名を選んだ。服装は三分袖ブラウスを着用、左右の腕・手に各5点、合計10点の測定点を取り、第1報同様の姿勢で運針を行った。運針材料および条件は次の表の通りである。

布地別	さ ら し			平 絹			ブロード			ゆ か た		
針	3 の 2			4 の 2			3 の 2			3 の 2		
糸	綿 30/3 ^S			絹手縫糸9号			綿 30/3 ^S			綿 30/3 ^S		
縫目線	有		無	有		無	有		無	有		無
間 隔	10 cm	15 cm	自由	10 cm	15 cm	自由	10 cm	15 cm	自由	10 cm	15 cm	自由

運針動作と正面斜上から、16mmフィルムにて1秒間50コマの高速撮影を行い、各測定点の変位を読み取り、撮影時の運針の針目と照合した。

今回は、その内、熟練者1名、運針用布 さらし の場合について報告する。

- 結果
- 1 運針速度については、線有と無を比較すると、やや線無がよい。
 - 2 1針ごとの針目の大きさと運針速度には、あまり関係がみられない。
 - 3 右第一指と第二指の動きが、針目の正しさに影響を与える。